

# TOSHIBA

Leading Innovation >>>

# 2013年度 決算説明資料

2014年4月28日

東芝テック株式会社

eco スタイル

東芝グループは、持続可能な  
地球の未来に貢献します。

---

**本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。**

# 決算概要

- ✓ 2013年度実績は対前年で増収・増益。
- ✓ 売上、営業利益、純利益ともに前回公表値(10/28)を上回り着地。

- **売上高 4,989億円 (対前年+952億円)**  
国内事業、既存の海外事業が好調に推移し、大幅増収。  
加えて、12年8月に買収した東芝グローバルコマースソリューション(以下、GCS)事業が今年度は期初から連結に貢献。
- **営業利益 231億円 (対前年+72億円)**  
主には既存海外事業や国内事業の増収、販売管理費の改善等にもなう増益。  
EBITA(営業利益+のれん償却費)は、276億円で対前年+69億円。
- **フリーキャッシュフロー △217億円 (対前年△44億円)**  
GCS事業取得にかかる対価の支払い(218億円)によりマイナスを計上。
- **配当**  
1株あたり8円の年間配当(前年と同額)を実施。

## (参考1)13年度の前回公表値(10/28)

▶売上高	4,900億円
▶営業利益	215億円
▶当期純利益	68億円

## (参考2)当社での過去最高実績

▶売上高	5,108億円(2006年度)
▶営業利益	261億円(2007年度)
▶当期純利益	134億円(2007年度)

# 2013年度 業績

単位：億円

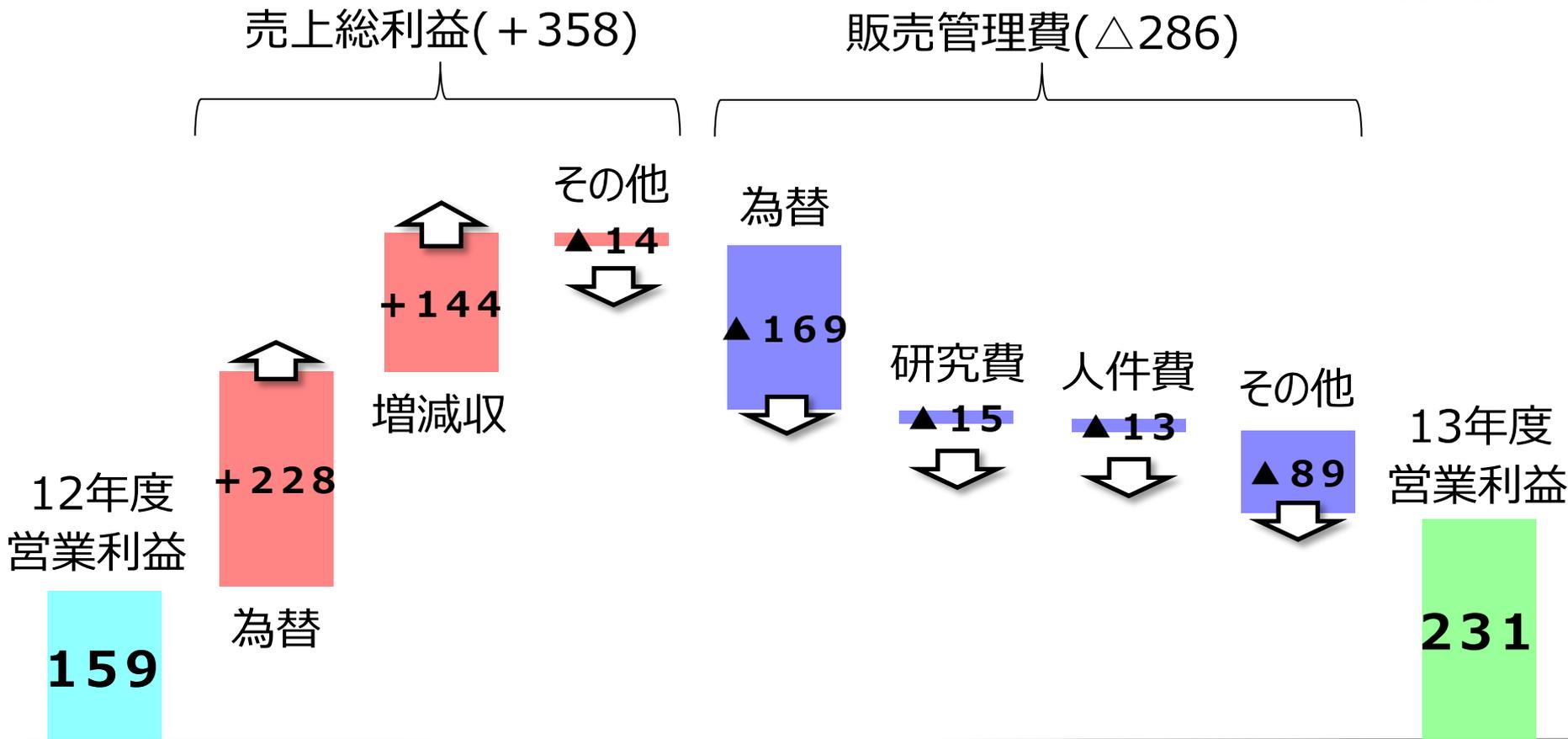
	13年度	12年度	差異
			対12年度
売上高 伸長率%	4,989	4,037	952 124%
営業利益 対売上高比率%	231 4.6%	159 3.9%	72 0.7%
経常利益 対売上高比率%	201 4.0%	149 3.7%	52 0.3%
税引前利益 対売上高比率%	144 2.9%	129 3.2%	15 △ 0.3%
当期純利益 対売上高比率%	71 1.4%	62 1.5%	9 △ 0.1%
為替レート(円) US\$	99.75	83.11	16.64
EUR	133.37	107.14	26.23

注. 2012年8月1日から、GCS事業の業績を連結対象に組み込んでおります。

# 営業利益の増減分析（2013年度）

- ✓ 為替の影響は、原価・販売管理費あわせて+59億円。
- ✓ 売上増、販管費増の主な要因は、GCSのフル連結化。

単位：億円



# セグメント情報（１）売上高・営業利益

単位：億円

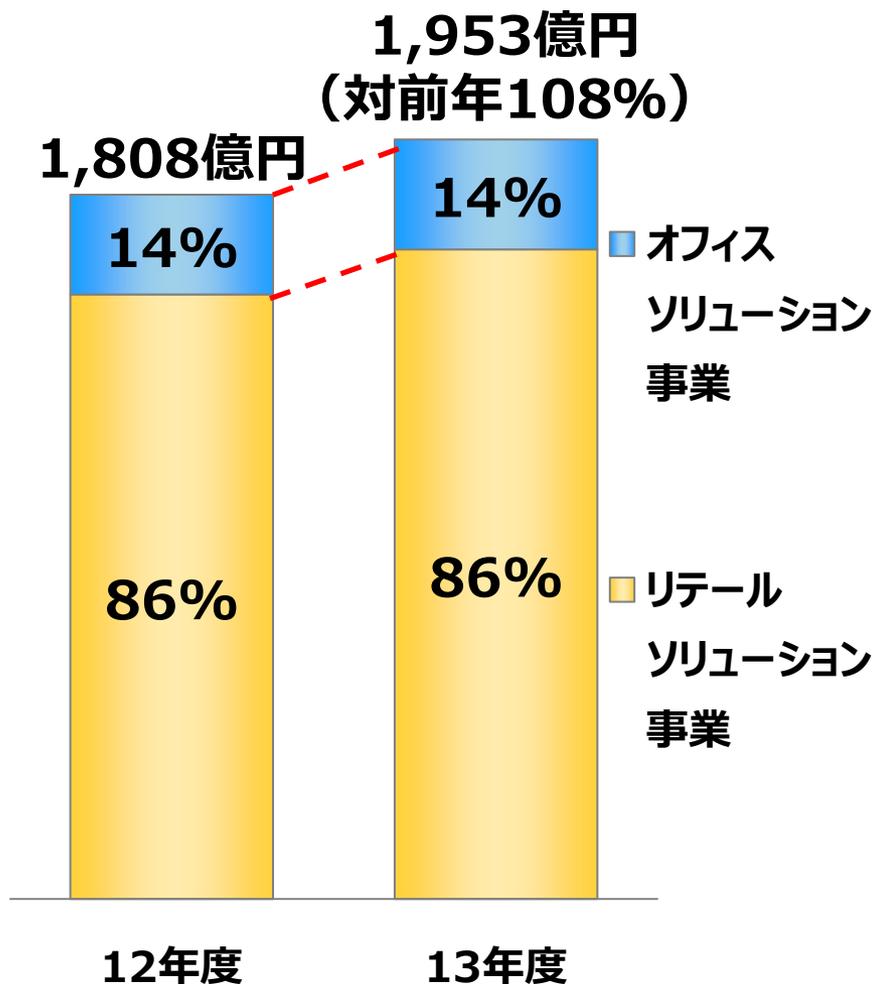
売上高	13年度	12年度	差異
			対12年度
システムソリューション	1,953	1,808	145
グローバルソリューション	3,175	2,354	821
計	5,128	4,162	966
部門間取引	△ 139	△ 125	△ 14
連結計	4,989	4,037	952

営業利益	13年度	12年度	差異
			対12年度
システムソリューション	97	87	10
グローバルソリューション	134	72	62
連結計	231	159	72

注. 2012年8月1日から、GCS事業の業績をグローバルソリューションのセグメントに組み込んでおります。

# セグメント情報（2） システムソリューション

## 事業別売上高構成比

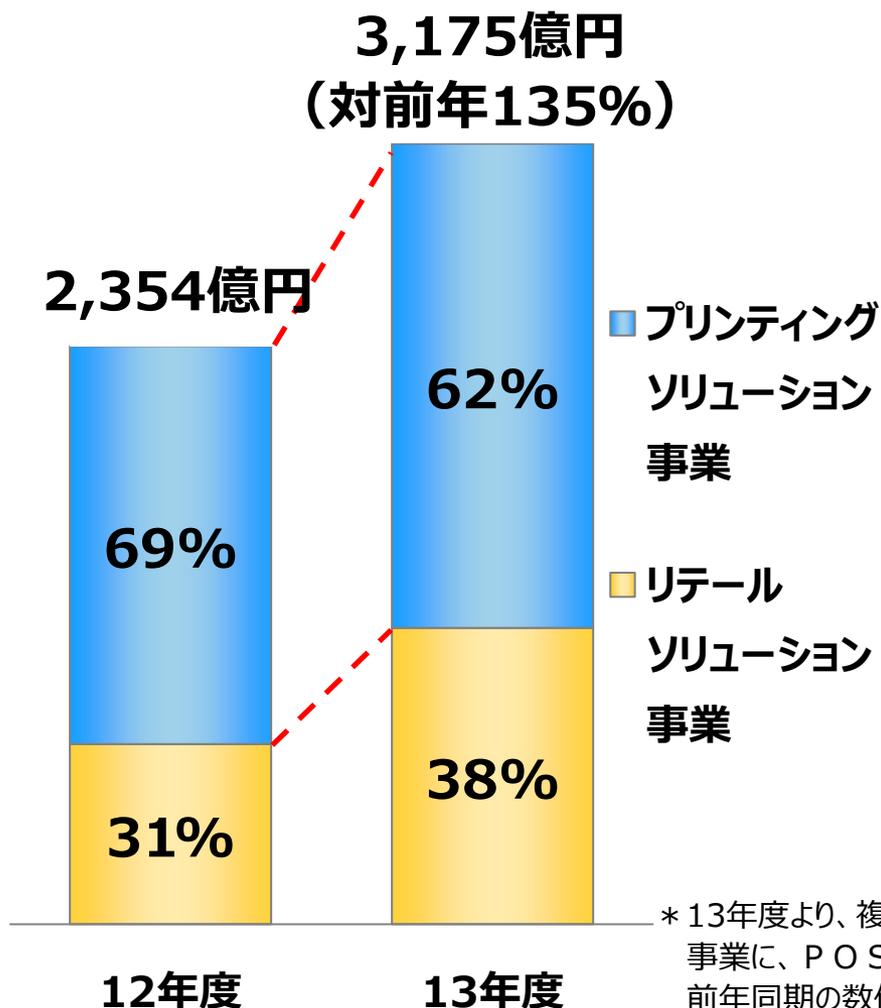


◆ リテールソリューション  
量販店・専門店・飲食店向けを中心にPOSシステム関連の売上が拡大。

◆ オフィスソリューション  
カラーMFPの案件受注が好調により、オフィスソリューション事業を牽引。

# セグメント情報（3） グローバルソリューション

## 事業別売上高構成比



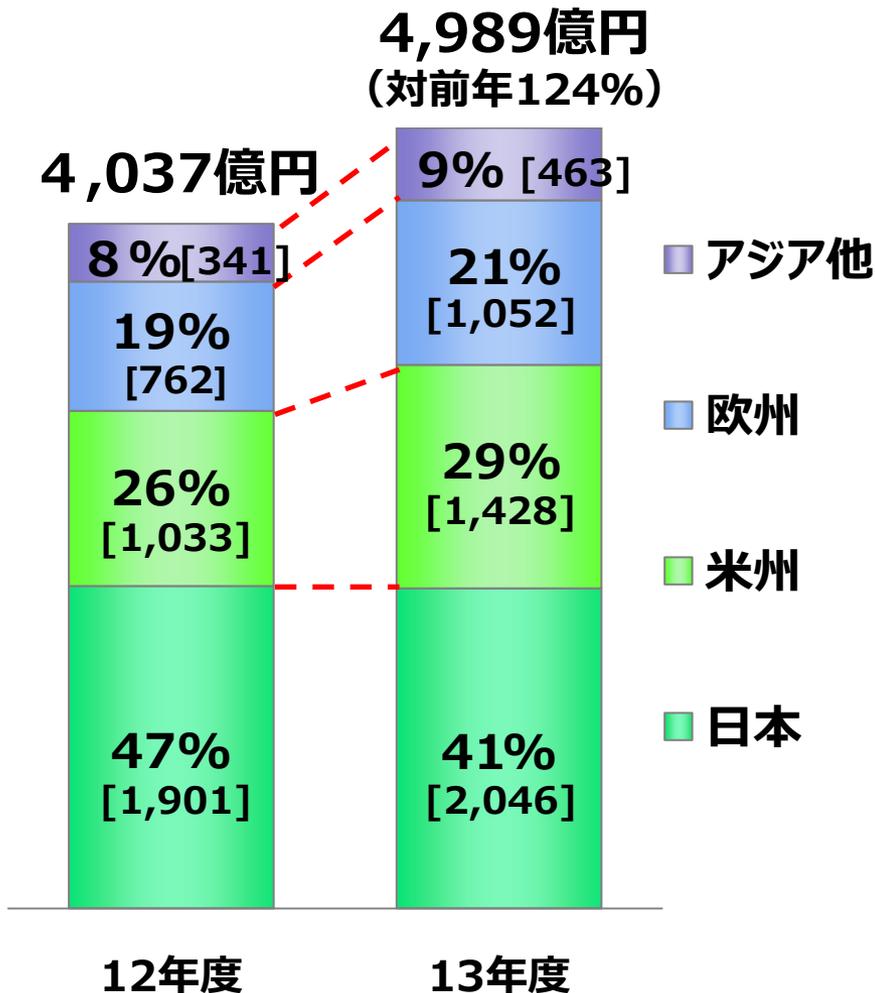
◆ プリンティングソリューション  
地域ごとの戦略商品(欧米：カラー中高速機、新興国：カラー/モノクロ低速機等)の拡販、為替改善により売上高は120%超の伸び。

◆ リテールソリューション  
GCS事業が期初から連結したこと、既存事業が為替改善等で伸長したことにより売上高は160%超の伸び。

\* 13年度より、複合機およびオートIDシステム関連商品の売上をプリンティングソリューション事業に、POSシステム関連商品の売上をリテールソリューション事業に区分しています。前年同期の数値も遡って組み替えをしています。

# 仕向地別売上高

## 仕向地別売上高構成比



◆ 日本  
量販店・専門店・飲食店向けのPOSシステム、また、カラーMFPの販売が好調に推移し、増収。

◆ 米州  
IBMからの事業取得の他、MFPやAIシステムが伸長し、増収。

◆ 欧州・アジア他  
景気低迷による上期の減収傾向(現地通貨ベースの前同比較)が下期に回復。為替改善やIBMからの事業取得にともなう売上分を加え、全体で増収。

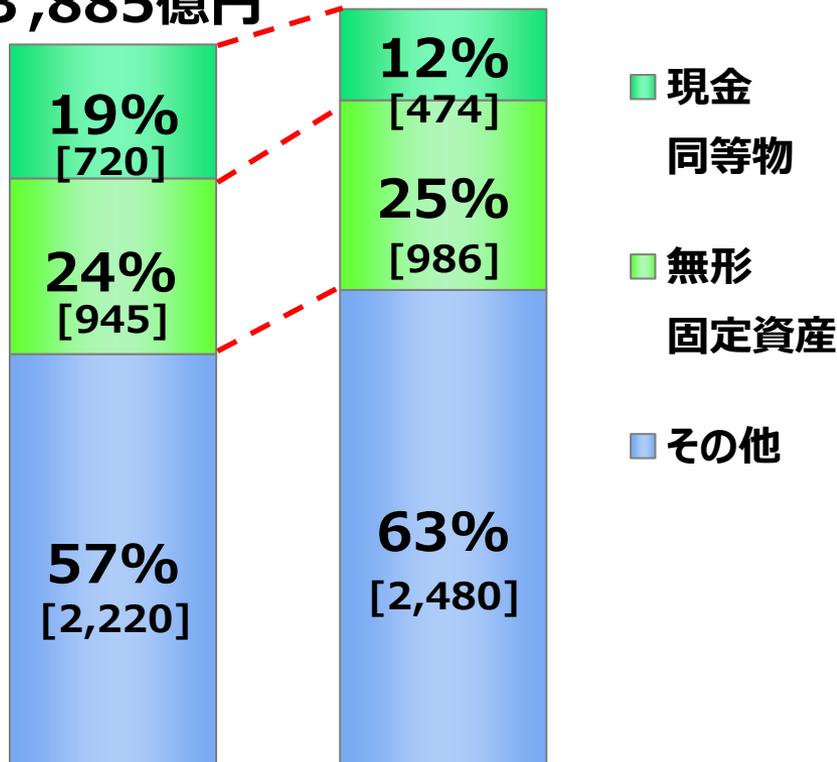
# 貸借対照表（1）

## 資産の部

3,940億円

(対前年度末+55億円)

3,885億円



### ◆ 現金同等物

IBMからの事業譲受にともなう対価の支払い(2回目：218億円)等により、246億円の減少。

### ◆ 無形固定資産

主にGCSのシステム関連での資産取得等により、41億円の増加。

### ◆ その他

売掛金、棚卸資産等により、260億円の増加。

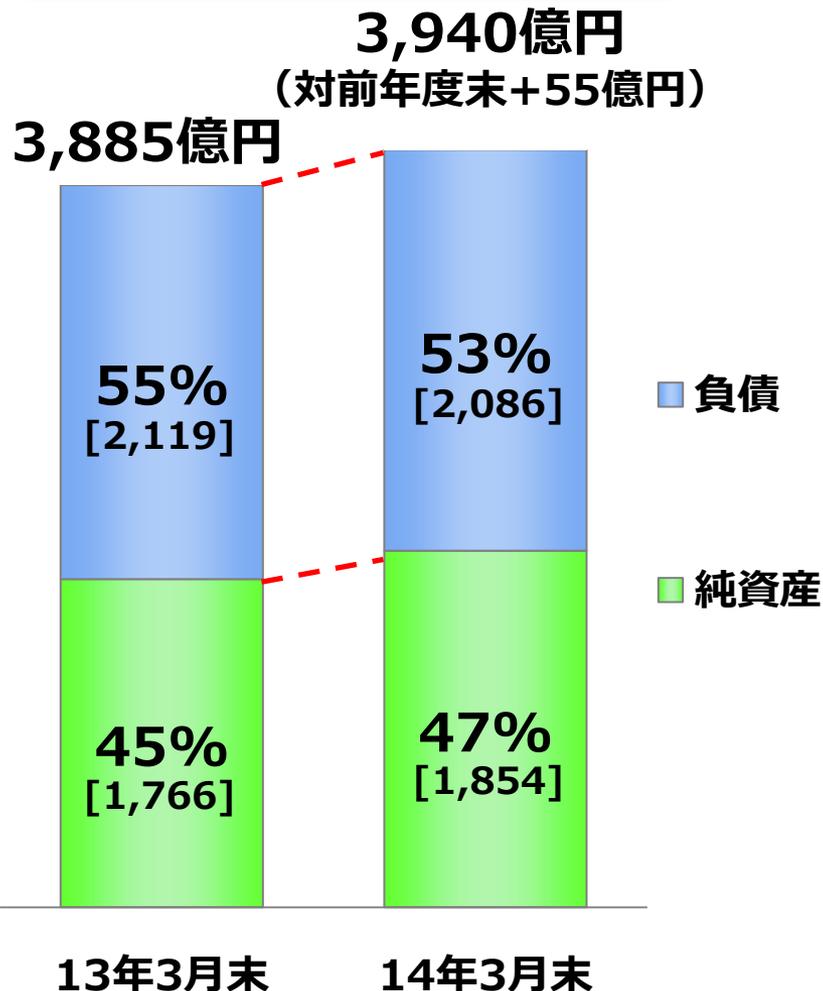
13年3月末

14年3月末

注. [ ] 内 科目別残高 (単位：億円)

# 貸借対照表（2）

## 負債及び純資産の部



注. [ ] 内 科目別残高 (単位: 億円)

### ◆ 負債

IBMからの事業譲受にともなう対価の支払い(218億円)で未払金が減少。一方、買掛金の増加や退職給付会計の変更にともなう固定負債の増加等により、負債合計で33億円の減少。

### ◆ 純資産

当期純利益および円安傾向にともなう為替換算調整勘定の変動等により、88億円の増加。

# キャッシュ・フロー

単位：億円



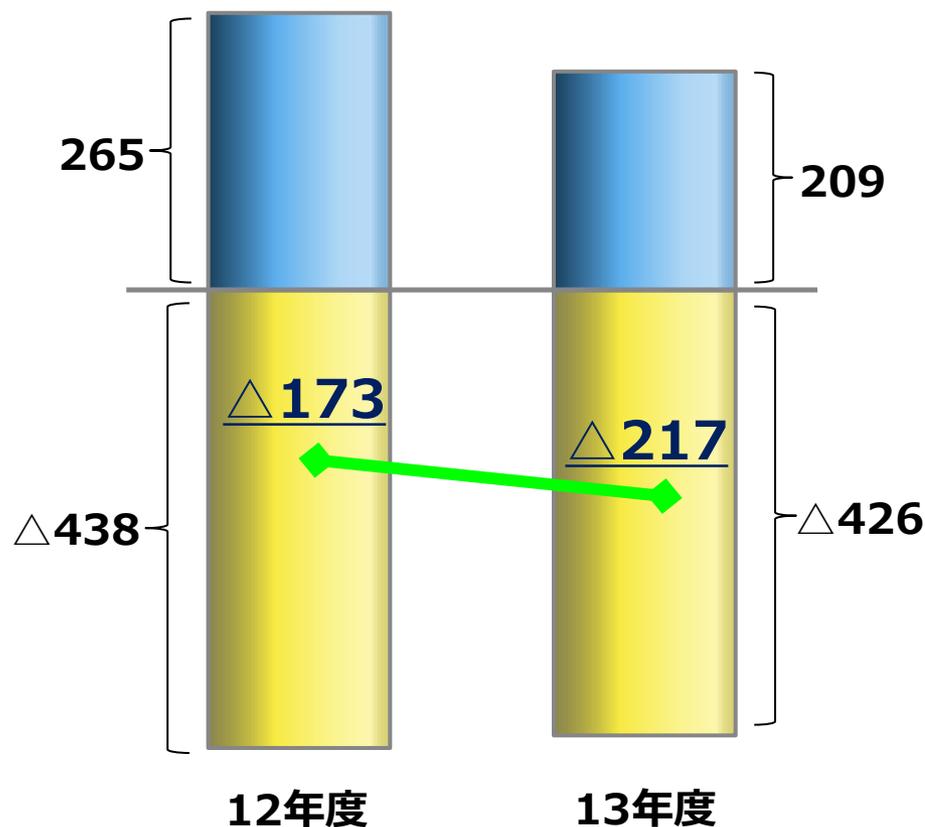
営業キャッシュフロー



投資キャッシュフロー



フリーキャッシュフロー（下線）



## ◆営業キャッシュフロー

事業規模拡大にともなう運転資金の増加、法人税支払の増加等により、対前年56億円の減少。

## ◆投資キャッシュフロー

GCS事業取得にかかる対価の支払いは対前年で約120億円減少したものの、固定資産の取得等による支出増加により、投資CFは対前年12億円減少。

## ◆フリーキャッシュフロー

対前年44億円減少のマイナス217億円。ただし、GCS事業取得にかかる対価の支払い(218億円)を除くと、1億円のプラス。

# 2014年度 業績見通し

単位：億円

	14年度	13年度	差異
			対13年度
売上高 伸長率%	5,200	4,989	211 104%
営業利益 対売上高比率%	280 5.4%	231 4.6%	49 0.8%
経常利益 対売上高比率%	260 5.0%	201 4.0%	59 1.0%
当期純利益 対売上高比率%	120 2.3%	71 1.4%	49 0.9%
為替レート (円) US\$	100.00	99.75	0.25
EUR	138.00	133.37	4.63

# セグメント情報 2014年度業績見通し

単位：億円

売上高	14年度	13年度	差異
			対13年度
システムソリューション	1,950	1,953	△ 3
グローバルソリューション	3,400	3,175	225
計	5,350	5,128	222
部門間取引	△ 150	△ 139	△ 11
連結計	5,200	4,989	211

営業利益	14年度	13年度	差異
			対13年度
システムソリューション	110	97	13
グローバルソリューション	170	134	36
連結計	280	231	49

---

**TOSHIBA**  
Leading Innovation >>>

**東芝テック株式会社**